

「つゆひかり」の発根特性と初期生育の改善

〔研究のねらい〕

- ・2003年に品種登録された「つゆひかり」は、芳醇な香味とエメラルドグリーンの水色を有し、近年栽培面積が増加している有望品種です。
- ・しかし、定植時の生存率が低いことや、幼木時に落葉しやすいことなどが欠点として指摘されています。
- ・そこで、生存率の向上や落葉防止、及び幼木時の生育改善を図るための試験を行いました。

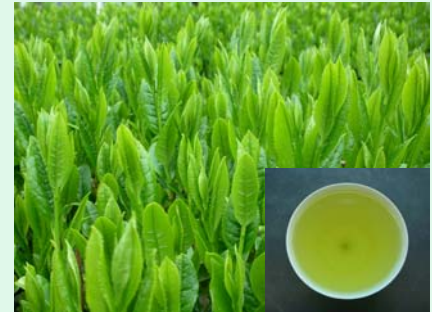


写真1 「つゆひかり」の一番茶新芽と水色

〔研究の成果〕

○発根特性

「つゆひかり」は、「やぶきた、さやまかおり」に比べて、根域が狭い傾向です。

切断後の発根性も、他の2品種に比べ劣る傾向です。



写真2 根系分布の比較

○3年生苗による生育改善

3年生苗は2年生苗に比較して、定植後の生存率、生育(樹高×株張り)が優れます。

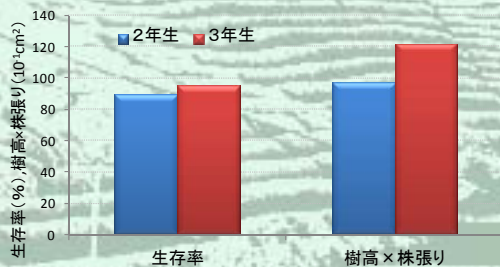


図1 苗齢と生存率、生育との関係

○マルチ処理による生育改善

定植時のポリマルチ処理により、生育が向上します。

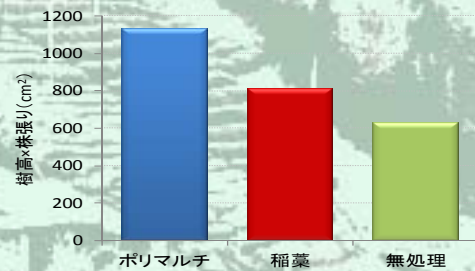


図2 マルチ処理と生育との関係

○防風処理による落葉防止と生育改善

定植1年目のトンネル被覆、防風ネットの設置は落葉防止効果が高く、生育も優れます。

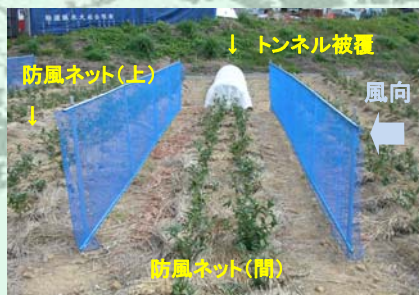


写真3 防風処理

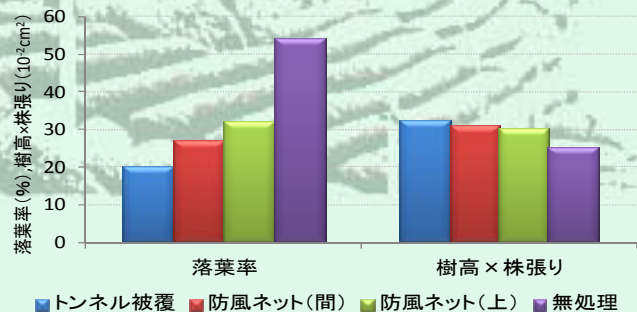


図3 防風処理と落葉率、生育との関係